

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	講義
科目名	国際政治	科目ナンバー	JAPOL2207
英語表記	International Politics	担当教員	永井 史男
単位数	4		

科目の主題

国際秩序の生成、維持、崩壊に関する歴史的・理論的考察

授業の到達目標

近代国際関係（ウェストファリア体制）、ウィーン体制、ヴェルサイユ体制、冷戦システムの生成及び崩壊に関して、その原因と理由を歴史的・理論的に理解・説明できるようにする。

授業内容・授業計画

以下のような順序で講義する予定である。ただし、講義の進行具合によっては内容に変更があるかもしれない。

第1回	はじめに
第2回	近代国家と外交（1）—近代国家の特徴
第3回	近代国家と外交（2）—外交とは何か
第4回	勢力均衡体系（1）—勢力均衡とは何か
第5回	勢力均衡体系（2）—勢力均衡の問題
第6回	イギリス外交論
第7回	ウィーン体制（1）—フランス革命
第8回	ウィーン体制（2）—ウィーン会議
第9回	ウィーン体制（3）—会議(Congress)システム
第10回	ウィーン体制（4）—会議(Conference)外交
第11回	ビスマルク外交（1）—19世紀後半の社会・経済変化
第12回	ビスマルク外交（2）—ドイツ統一と勢力均衡
第13回	アメリカの普遍主義（1）—孤立主義
第14回	アメリカの普遍主義（2）—国際主義
第15回	ヴェルサイユ体制（1）—第一次世界大戦
第16回	ヴェルサイユ体制（2）—パリ講和会議
第17回	ヴェルサイユ体制（3）—ウィルソンの14か条
第18回	ヴェルサイユ体制（4）—国際連盟
第19回	戦後構想（1）—米英ソ各国の構想
第20回	戦後構想（2）—国際連合
第21回	冷戦の始まり（1）—冷戦の特質
第22回	冷戦の始まり（2）—トルーマン・ドクトリンとマーシャル・プラン

第 23 回	冷戦とアジア（１）－アジアの冷戦と「脱植民地化」
第 24 回	冷戦とアジア（２）－アメリカの対アジア政策の変化と朝鮮戦争
第 25 回	冷戦構造の変化（１）－多極化
第 26 回	冷戦構造の変化（２）－デタント
第 27 回	冷戦の終結（１）－ソ連のペレストロイカとベルリンの壁崩壊
第 28 回	冷戦の終結（２）－ドイツ統一、ヨーロッパ統合
第 29 回	国際政治の理論（１）－リアリズムとリベラリズム
第 30 回	国際政治の理論（２）－国際社会論と国際秩序

事前・事後学習の内容

事前に予習する教科書の該当範囲は、授業中に指示する。事後学習に関する指示は、講義中に挿入するレジュメの末尾に記載しているので、そちらを参照すること。

評価方法

期末試験の結果のみで評価する。小テストは行わないが、指定した国際政治文献リストの中から適宜 1 冊選び、レポート執筆の機会を与える。レポート提出は義務的ではないが、レポートの出来栄に応じて、成績評価に反映させる。

受講生へのコメント

毎年のことだが、試験直前のときだけ来てノートだけで単位を取得しようとする者がいる。本講義がカバーする範囲は広く、講義中に配布するレジュメは 100 枚近くに及ぶ。2 日や 3 日の一夜漬けで単位が取れるほど甘い授業ではないので、そのつもりで出席（あるいは欠席）されたい。

教材

テキスト：細谷雄一『国際秩序：18 世紀ヨーロッパから 21 世紀アジアへ』中公新書、2012 年。ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・ウェルチ、田中明彦・村田晃嗣訳『国際紛争－理論と歴史 [原著第 9 版]』有斐閣、2013 年。

参考書：中西寛『国際政治とは何か：地球社会における人間と秩序』中公新書、2003 年。石井修『国際政治史としての 20 世紀』有信堂高文社、2000 年。

その他

講義中にレジュメと参考資料を配布する。また、受講生の声を講義に反映させるため、中間アンケートを実施する。

関連科目：欧州政治外交史、国際組織法

履修可能最低年次

2 年次生以上